

AP

100 Years and Beyond

COMMUNICATION

株式会社アピックス 社外報



特集

インタビュー with アピックス
～ポストコロナへ～

令和五年
2023 Sep.

Vol. **53**

変化は絶えない。しかし、会社は必要とされ続ける。

Change is constant. Let's evolve together.



Special Talk

JET

インターンシップ生

代表取締役社長

河村 武敏

100周年をwithコロナで迎えたアピックスにとってどんな時代になったのか

長い歴史の約4分の1に立ち会ってきた河村社長が思うアピックスのDNA「環境変化への対応」

90年代までのインフラを中心としたプロダクションサービスからBPOサービスへと、変化に柔軟に対応してきたその面白い会社を、社長は愛しているという。2020年からコロナによりコミュニケーションの取り方が一変した中、いち早くテレワークを導入したことでお客様のニーズに応え、新しいご縁にも恵まれたのだとか。

「変化を楽しむ」アピックスだからこそ、100年以上続けられたと社長が振り返る ——

Q&A

アピックスの社員にJET生がインタビューをさせて頂きました。普段の仕事についての説明からプライベートの話まで、会社と社員への知識を深めることができました。様々なコロナ禍の振り返りや会社の意見、個人的な目標などをこちらでまとめてみました。

Production Management プロダクションマネジメント部



部長
増田 良輔

A1

コロナ禍でオンライン会議が多くなりコミュニケーションが特に難しくなりました。マスクにより表情が伝わりにくくなったり、心の距離を実感しました。その反面、家族との時間が増えたり、ゴルフを始めたり、コロナ時代は、反省の機会ではありつつ、新たな事を始めるきっかけとなりました。

A2

オンライン会議による移動時間の節約はメリットとして、今後も続けたいと思います。また、他社やコロナ状況に合わせた社内ルールの改善、物事をいかに早く、スムーズに進めていくかを考える良い機会となりましたので、今後もそういった取り組みを続けていきたいと思っています。

A1

コロナ禍の大変さの中、社員同士がお互いに理解が深まり情報共有がしやすくなりました。人がいない日が続き、もう指示を待つ立場ではなく、自分が指示を出せるような立場になりたいという意志の変更がありました。

A2

コロナ時代の制限が緩和しましたが、これから先も無理をせず、アピックスで体調が悪くても出社するという意識をもう少しなくして、気持ちよく休める仕組みにしたいです。



東京1グループ
長谷川 夏鈴



大阪1グループ
大村 晴音

A1

コミュニケーションと勉強の仕方が変わり、友達と会う機会も減りました。また、就職活動は先輩の時とは状況が異なり、柔軟に対応する必要がありました。ただ、移動時間が減ったり、授業はオンデマンドで受けられたり、良い点もありました。

A2

想定外のことが起こることもあり、「やりたいことはすぐにやる」という考え方が大切だと感じました。会社ではまだ一年目ですが、今後は提案できるように、また、他のチームの業務も経験し、活躍できるようになりたいです。

—— 社長が描く、アピックスの未来像とは？

コロナまでは日本は紙で動く社会でしたが、今はChatGPTやAIの普及など、1台のパソコンがあれば、世界のどこでも仕事ができる社会になってきました。そのような社会においても必要とされる会社になるために、様々なことに取り組みました。当たり前だと思い込んでいた物事が覆されるようなこの時代、DX（デジタル化）に取り組み、さらに様々な出身、年齢、経験を持つ社員を雇い、多様性を高めることで、よりお客様から必要とされるBPOサービスを提供して参ります。何が起こるのかが予想できない時代ですので、今まで通りの保険やBCPといった対策だけでは生き残れないため、やり方を変えて進んでいきます。変化をチャンスにし、常にアンテナを張る意識を持ち、お客様と共に進化ができる関係を築くことを中心として、未来へ進みたいと思います。

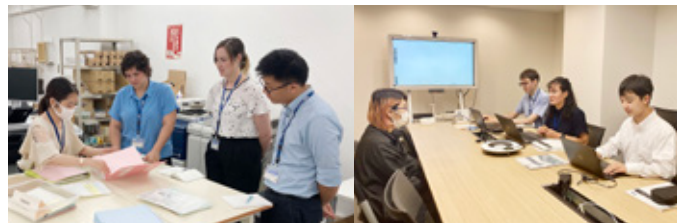
《インタビュー記事：JETインターンシップ生》

JETプログラム：The Japan Exchange and Teaching Programmeの略称。外務省、総務省、文部科学省、（一財）自治体国際化協会の協力のもと、地方公共団体が諸外国の若者を地方公務員等として任用し、日本全国の学校で外国語を教えたり、地方公共団体で国際交流のために働いたりする機会を提供する事業。



Q1 コロナ禍がプライベートや働き方など、どんな風に影響しましたか

Q2 これから先、どのように活動していきたいと思いますか



カスタマーリレーション部 Customer Relations

A1 アピックスの根強い文化には変化が少なかったと感じているが、一番変わったのは休みでも電話を離せなくなったことでしょうか。お客様の仕事をストップさせるわけにはいかないので、対策を練りながら業務に励む日々となりました。

A2 将来に向けて会社をより成長させるには、若い人に活躍してもらうのが近道だと信じます。次世代を育てながら引き続き、お客様に寄り添って、一緒に仕事をつくっていく真面目、素直な会社を目指していきたいと思います。



部長
岡本 匡史



大阪1グループ
吉本 理子

A1 お客様の働き方も変化し、以前よりも、お仕事の受注量が増えました。テレワークでコミュニケーションの方法も難しくなりましたが、オンオフの切り替えが簡単になったと思います。また、その日できることは、その日中に終わらせるという習慣ができました。

A2 様々な変化や時代に合わせて、柔軟に対応したいと思っています。コロナ禍に始めた仕事の効果的な方法を続けたいと思います。チャットで業務の様子や報告、履歴が残る事は良かったし、皆の健康に気を配ることは継続していきたいと思っています。

A1 コロナがなかったら、日本ではテレワークは普及していないと思います。CR部ではテレワークの機会が多くなりましたが、結局メリットもデメリットもあると思います。家にいると身体的に楽し、通勤は必要ではありません。しかし、出社すると効率が良いと思います。

A2 コロナの影響でテレワークが普及して、製薬会社向けの自動化サービスの価値も認められてきたと思います。コーディングをやり始めて夢中になりました。これからもデータ処理の自動化で素晴らしい物を作成し、皆さんの仕事に役に立ちたいと思います。



東京1グループ
徐 懌
じょ えき

2023夏季JETインターンシップ 5日間を振り返って…

実際に現場での仕事を体験し、社員のインタビューをすることで、やりがいのある仕事が多く非常に感銘を受けました。対応力が大切だと感じて、たくさんの勉強になって嬉しかったです。



アリス・アンダーソンさん

普段からはなかなか接点が少ない業界・会社のリアルを実際に体験してみて、わくわくドキドキのつづく5日間になりました。Web会議など今時の社風に刺激を受けましたし、色々なことを自由にやらせていただけたのも嬉しかったです！



ピエール・ウベール・レルーさん

社長と社員のインタビューを通じてアピックスやBPOサービスについての説明を受け、勉強になりました。この体験が私の視野を広げました。アピックスとインターン生の皆さんへ大変感謝しております。



エヴァンジェリン・マレキさん

この5日間、いつも慣れている環境や業界と違う場所での仕事はとてもやりがいがあり、自分の実力を知る絶好の機会でした。自分がこれから進むべき道が見えるようになった気がしました！



トニー・ルーさん

アピックスさんがこの機会を与えて下さって感謝しております。本物の職場での協力の仕方、社員の経験、会社のBPOサービスの働き方などの知識を得たと思います。これからこの経験を持ち日本の会社で働き続けたいと思います。



クリストファー・ガトリングさん

アピックスの早いテンポで、ハイブリッドな環境に触れられて嬉しかったです。大阪本社の皆さんからこれからの仕事に役立つ方法をたくさん学びました。ありがとうございました！



グウェナフェーイ・マコーミックさん



8/21-25にかけて、アピックスではJETプログラムのインターンシップを行いました。大阪本社と東京支店で各3名のインターンシップ生が参加し、今回はいつもと違った目線で書かれた記事をお届けしました。今号の全ての記事はJET生が執筆しています。社員達もこのきっかけで新たな体験や気づきが出来たのではないかと思います。

経営企画室 袁アレックス

株式会社アピックス

本社 〒541-0059 大阪市中央区博労町1-2-2
TEL:06-6271-7291 FAX:06-6271-7296

東京支店 〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-4-14 OZAWAビル3F E-mail info@apix.co.jp
TEL:03-5879-7291 FAX:03-5879-7296 URL http://www.apix.co.jp